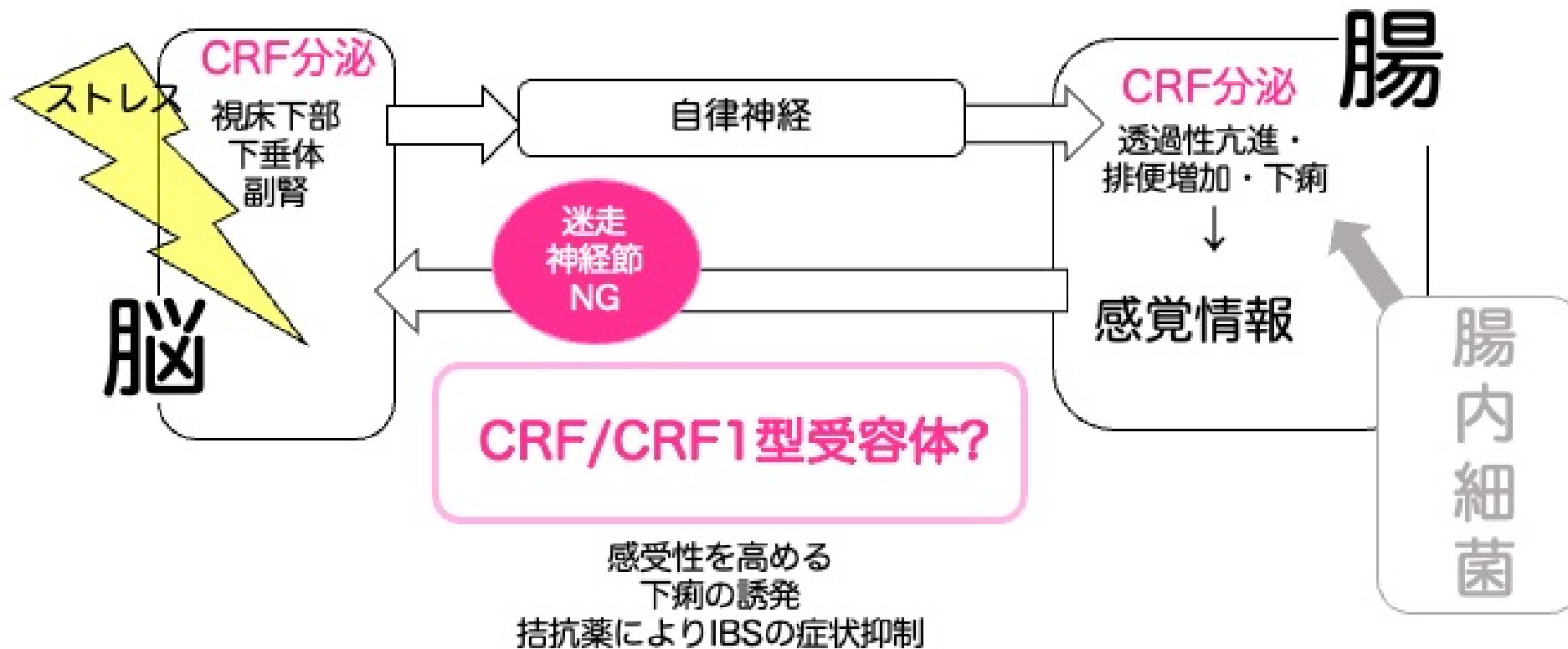


【研究内容 3】



脳内ストレス伝達物質である副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン (CRF) は、ストレスにより視床下部からの分泌が促進して視床下部—下垂体—副腎軸を活性化することで生体防御反応に寄与している。CRFは末梢組織でも産生・分泌されており、特に大腸ではCRFは痛みに対する感受性を高めること、大腸壁の運動性や粘膜の透過性を亢進させることで下痢を誘発することなどから、ストレスにより分泌されたCRFの大腸での過剰分泌が脳腸相関異常に関与していることが示唆されている。

消化管から脳への求心性の情報伝達は、迷走神経や脊髄神経が担っているが、情報伝達機構に関与する因子や回路についてよくわかっていないため、ストレスによる脳腸相関異常における迷走神経節の機能とCRFの関与様式を明らかにするための研究を行っている。